

I 今年の最後の礼拝で主の恵みを感謝したい。

1. 「主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな」詩篇103：2。自分に語り掛ける。この深い御言葉を！神への賛美と感謝は、神を喜ばせ、私達に聖なる力を与える。※賛美と感謝の勧めは、聖書で最も多い！※ある方の質問「あなたの信仰の秘訣は？」 答え：感謝。

主が良くしてくださったこと、恵みを「何一つ忘れるな」。私達の弱点を見抜かれた御言葉。私達は、人のした悪は忘れず、主の恵みや人がしてくれた良い事は忘れ易い。不平不満は、自然に出て来るが、感謝は、自分にこの御言葉を語り掛け、意識して、主の恵みを数える事が大切。ノートやディボーションノート等に記す事は、大きな恵み！※私の小さな実践の恵みの証し。※神から離れる事を決めた方の回復の証し。何度も聞かれていますと思いますが。

※主の恵みを思い出し、数え、記して見ましょう。あられる恵みに気付かされる。

2. 103：3からの主の恵みで、最初に記されている恵みに深い意味が！赦しによる素晴らしい神との関係の回復、神と交われること自体が最高の奇蹟的な恵み、祝福だからです。

3. 感謝の敵とそれに対処する素晴らしい御言葉。

① 人と比べ、自分にないものを数え、ねたんでしまう→対処：自分にないものではなく、神から与えられているものを数え、感謝し、それらを神が望まれる事の為に喜んで用いて行きたい。「金を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもの（神から与えられているもの）で満足（感謝）しなさい。主ご自身がこう言われるのです。『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない』ヘブ13：5

②実は、私達は、すべての数えきれないほどの多くのものを神からいただいているが、それらを「当然、当たり前」の心でとらえ、感謝の心がなくなってしまう→対処：「あなたがは、何か、もらったものでないものがあるのですか」Ⅰコリ4：7。私達は、裸で生まれてきた。命も、体、歯も、今与えられている物質的な物、霊的な豊かな恵み（神の愛・主の恵み・聖霊の交わり）、すべては神が恵んで下さったもの。「当然、当たりの心」を悔い改めたい。

本日のみことば＝「感謝の心を持つ人になりなさい」コロ3：15。教会が与えられている事の感謝。祈り支えて下さる兄弟姉妹、牧会者の祈りと説教と伝道牧会、良き出会い、礼拝できる会堂、駐車場、コンサートの恵み他、数えきれない主の恵みを感謝したい。今年受洗者、教会への転入者が与えられた恵み。今洗礼の準備をされている人々が与えられている恵み。何一つ、当然ではない。無牧の教会、ゼロからの開拓で集う方が少ない教会、会堂がない教会、駐車場がない教会がある。自由に伝道できない国がある中で。

③満足度のハードルを上げてしまう→対処：御言葉の教えに、自分の満足度を合わせる。欲張らず、基準を下げる。※「全能の主との親しい交わり」P39の紹介。

「満ち足りる心（一つ一つを心から感謝する心）を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。私たちが何一つこの世に持って来なかったし、また、何一つ持って出ることもしません。衣食があれば、それで満足すべきです」Ⅰテモテ6：6-8。

- ④ 人への要求のハードルが、高過ぎる。人に求め過ぎる。そうすると、いつも心に怒り（要求）が起こり、いらいらしてしまう。→対処：人への要求のハードルを下げる。まず、その人の現状、等身大を受け入れる。人は受け入れられて初めて、変えられて行くプロセスが始まる。神は、私達を、そのまま、まず受け入れて下さる。そして、主の姿に一步一步、変え続けて下さる。「さばいてはいけません（まず受け入れる事をせず、自分の高過ぎる要求で人を責めてはならない）。（人を上からさばく自分が）さばかれないためです」マタイ7：1
- ⑤ 自分の思い、視点で、感謝とそうでないものを簡単に分けてしまう心→対処：苦しみや試練は、私達の人生、教会に常にある。主の恵みも常にある。※42年の牧会の中での霊的な学び。すべての教会に試練と恵みが共存する。苦しみ、試練も、偶然ではなく、すべて主の御支配の中にあり、主にあって尊い価値がある事を学び続ける。「様々な試練にあうときはいつも、この上もない喜びと思いなさい（原語：みなす）。あなたがたが知っているとおり、信仰が試されると忍耐（人生をあきらめず、神の最善なる事を信じて歩む）が生まれます」ヤコブ1：2，3①苦しみは、自分の弱さ、罪を教え、神に立ち返り、神に信頼し、神に心から拠り頼む事を教える。②苦しみは、苦しんでいる人を思いやる者、寄り添う者に変える。執り成し祈る者に変える。③苦しみの先に神の最善の新しい道が備えられている。※証し。すべてが理解できなくても、神を信頼し苦しみから主の御心を学ぼう。

II 感謝から生まれるもの

1. まず、罪深い私達を愛して下さった神への愛、喜びが増し加わる。神に心が近づく。
今ある試練にも、神の支配があり、意味があり、神はすべてを益にして下さると信じる信仰が生まれる。「神がすべてのことを働かせて益としてくださる」
ローマ8：28
2. 主が愛しておられる教会、お互いへの愛、感謝が増し加わる。教会のお互いに感謝を！「今年も、色々とありがとうございました」。
3. 家族、知人、友人、隣人への愛が、与えられる。要求のハードルを下げて、本日から、神様に対してと同時に、人にも感謝を示したい。それは、家族、隣人への良き証しとなる。ノンクリスチャンのご家族が、教会に出席する事を許して下さる事自体、心から感謝すべき事。本日、自宅に戻られてから、祈りつつ感謝の言葉を。互いに。私は、母と妻に。家族に。「今年も色々とありがとうございました」。何かあったの？と聞かれても感謝を。お互いに命あるうちに感謝を伝えたい。別れは突然に来る事もある。※「なくしてわかる、ありがたさ」。ある本の文の紹介。※証し：妻の両親への感謝。時があるうちに感謝を！神にも人にも表したい。
4. 神ご自身を喜び、神のあられる恵みを数え感謝する時、試練の中でも、私達に喜びが与えられ、そこから、心から主を証しする事、伝道、宣教が生まれる！